



Title	< 第7章 > 喜田盛遺跡出土の獣骨について
Author(s)	川島, 由次; 小倉, 剛
Citation	石垣市文化財調査報告書, 28: 203-210
Issue Date	2004-03-30
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1688
Rights	

第七章 喜田盛遺跡出土の獣骨について

川島由次・小倉 剛

(琉球大学農学部)

今回調査を依頼された獣骨類は、大型コンテナ9個分に及び、その大部分は喜田盛遺跡よりの出土骨であった。

◎動物種の構成について

まず喜田盛遺跡では、①ウシ、②ウマ、③ヤギ、④リュウキュウイノシシ(イノシシと略記)、⑤イヌ、⑥ヨナグニハツカネズミ、⑦クマネズミの7種の骨が確認できた。きわめて少数であったが、ニワトリ大から小型の野鳥数種が断片的に出現していた。

◎各種の動物の個体数について

各種動物の個体数の算定に際しては、臼歯のように破壊の対象とならずに多数残っているもの、肩甲骨関節部・距骨・下顎骨など左右で各1個しか存在しない骨の出現をその根拠とした(撮影に用いた骨はすべて喜田盛遺跡出土骨で、スケールは10cm)。

1. ウシ

ウシの臼歯は第58図に示したように、下顎に12本・上顎に12本計24本が存在する。出土臼歯数は9頭分(216本)+11本計227本が確認されたので10個体と算定した。「距骨(第59図)」は足根骨を構成する1種であるが、左右各9個計18個(9個体分)が出土していた。図版1は肩甲骨関節部(右側)、2は中手骨(左側)、3は膝蓋骨(右側)、4は距骨(左側)をホルスタイン種の骨と比較して示した。出土骨のウシの体形はかなり小型であったと思われ、類推のレベルではあるが、200~400kgレベルの体重ではと思われた。

2. ウマ

ウマの臼歯数は下顎12本(第58図)、上顎12本計24本でウシと同様であるが、出土数は8本であった。また、肩甲骨関節部も右側1個のみ出現しただけであったので、1個体と判断した。図版5は後肢のゆびの一部である「基節骨」を、図版6は「末節骨」をヨナグニウマと比較して示したが、出土骨のウマはヨナグニウマよりかなり大型で改良された新しい時代のウマと考えられた。

3. ヤギ

ヤギの臼歯数はウシと同様であるが(第58図)、臼歯が3本のみ確認されただけで、他の部位の骨は見当らなかった。

4. イノシシ

肩甲骨関節部において左側が11個、右側が9個出現したので11個体と判断した。イノシシの臼歯数は家畜化されても変化はなく(第58図)上・下顎で各14本計28本存在するが、出土した臼歯は3頭分(84本)+12本計96本で4個体分にすぎなかった。図版7は犬歯(雄・成獣)を石垣島産の現生イノシシ(体重65kg)と比較して示した。犬歯のサイズは両者ともほぼ等しいので、出土イノシシはかなり

大型のイノシシと思われた。石垣島産リュウキュウイノシシの最大クラスは、ハンターの人達より「85 kg」のものと聞いた事がある。本種は石垣島・西表島・沖縄島・奄美大島の4島に生息し、筆者の計測では石垣島産が最大の体型を示していた。石垣島には昔から大型のイノシシが存在していた事が本調査で確認することができた。本遺跡ではイノシシの幼獣がかなり含まれていたこと、雌の老獣も見当たらず、「イノシシの飼育」というような事実の可能性はうすいではなからうか。

5. イヌ

下顎骨が大型のもの（成犬）と小型のもの（幼犬）計2個が、また「後頭顆」（後頭骨の一部で第一頸椎と関節する部位）が2個確認できたので、2個体分と算定した。イヌの臼歯は上顎に12本・下顎に16本計28本存在するが（第58図）、出土した臼歯は6本のみであった。図版8に出土した成犬の下顎骨（左側）とワイアーヘアード・フォックステリア（雄）の骨と比較して示した。出土下顎骨はテリアのそれよりやや小型であるが、下顎体の高さや幅がより大きく頑丈なつくりになっている。テリアの体重は6～7 kgなので、出土犬は体重が7～8 kg レベルの小型犬と類推した。

6. ヨナグニハツカネズミ

本種のものと思われる「切歯」が1本出現した。

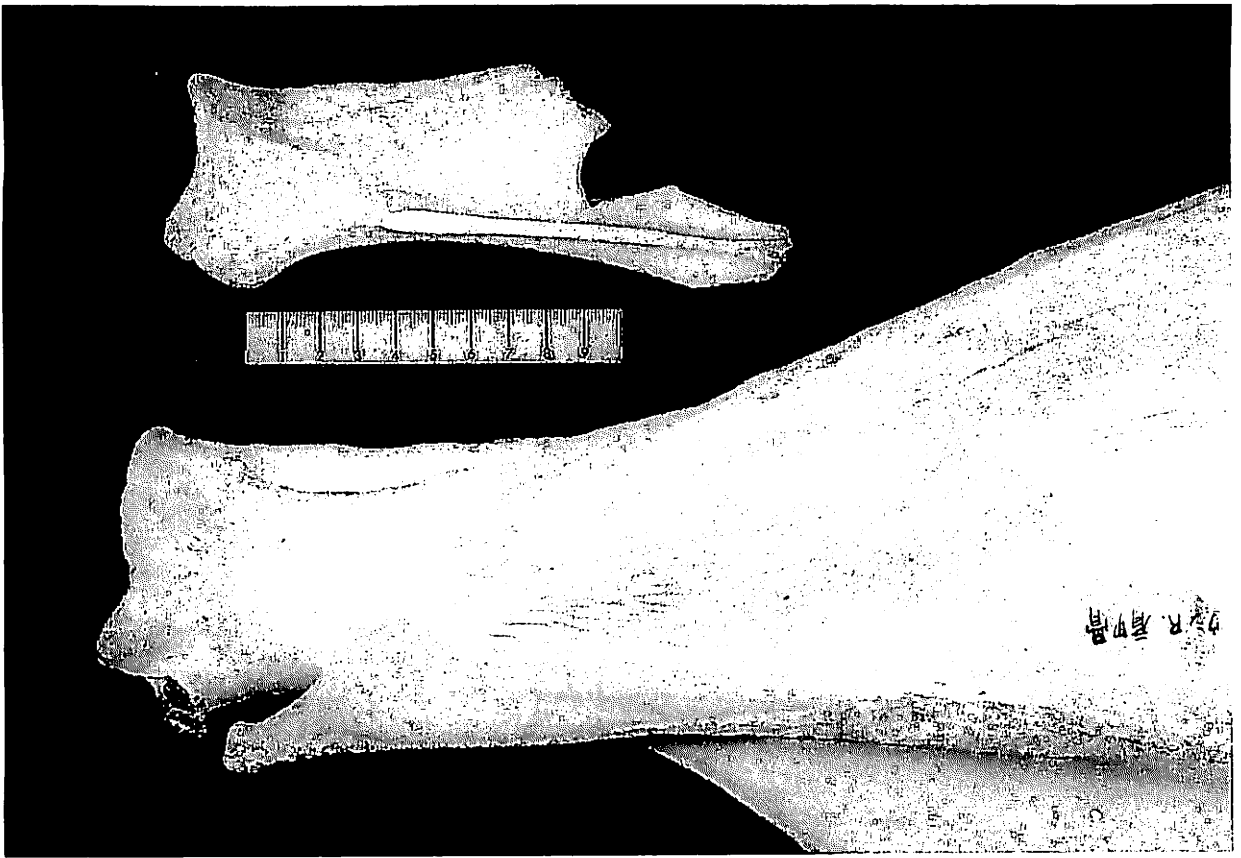
7. クマネズミ

大腿骨が1個認められたが、ドブネズミのものである可能性もある。

第17表. 喜田盛遺跡における動物個体数のまとめ

ウシ	ウマ	ヤギ	イノシシ	イヌ	ヨナグニハツカネズミ	クマネズミ
10	1	1	11	2	1	1

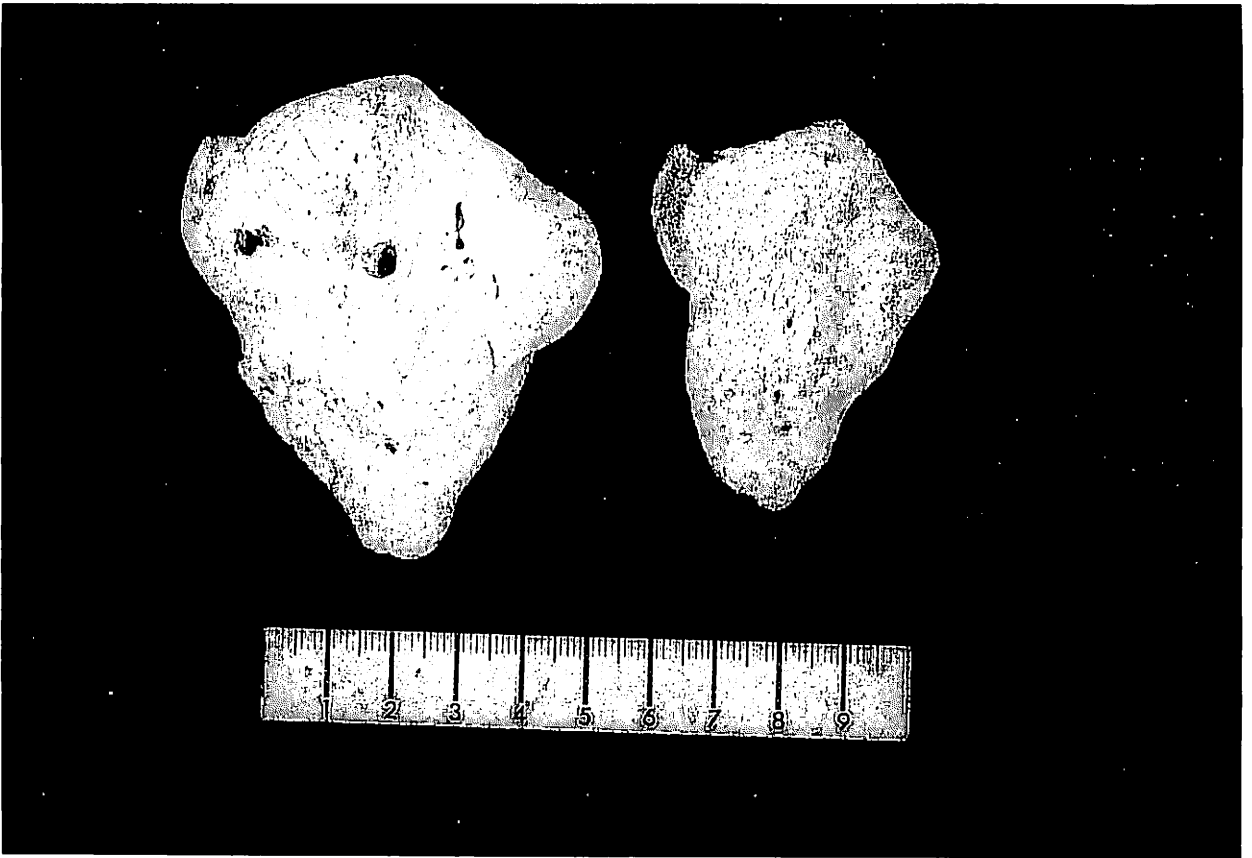
喜田盛遺跡における動物個体数を第17表にまとめてみた。喜田盛遺跡に関してその特色として指摘できることは、ウシが10頭分出土したというスケールの大きさと県内で例を見ないことである。また、骨の砕き方がゆったりと大らかであり、図版2に示したように中手骨がそのまま出土した例は初めての経験であった。遺跡レベルで非常に大型のイノシシの存在を確認できたことも注目し得るものである。



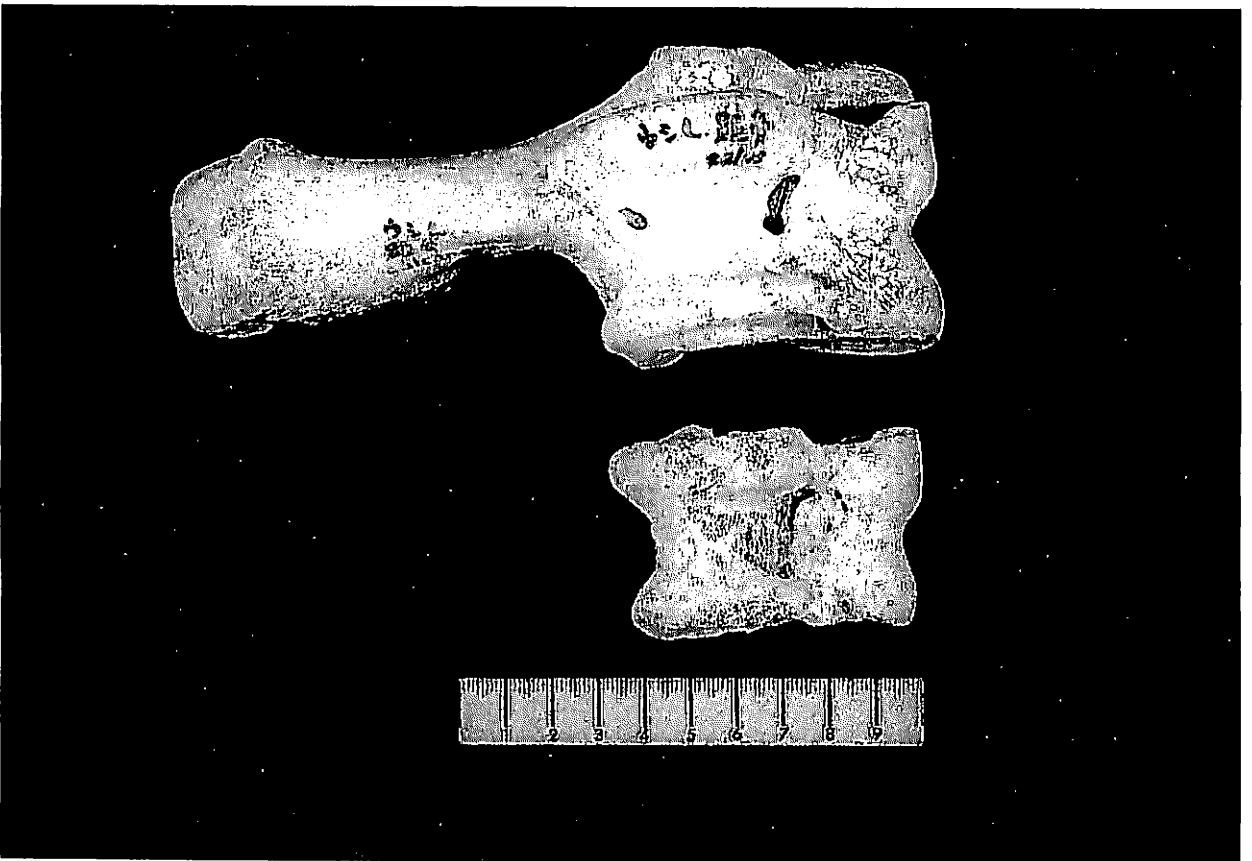
図版1 ウシの肩甲骨関節部(左端) 上：出土骨、下：ホルスタイン種



図版2 ウシの中手骨 上：ホルスタイン種、下：出土骨



図版3 ウシの膝蓋骨 左：ホルスタイン種、右：出土骨



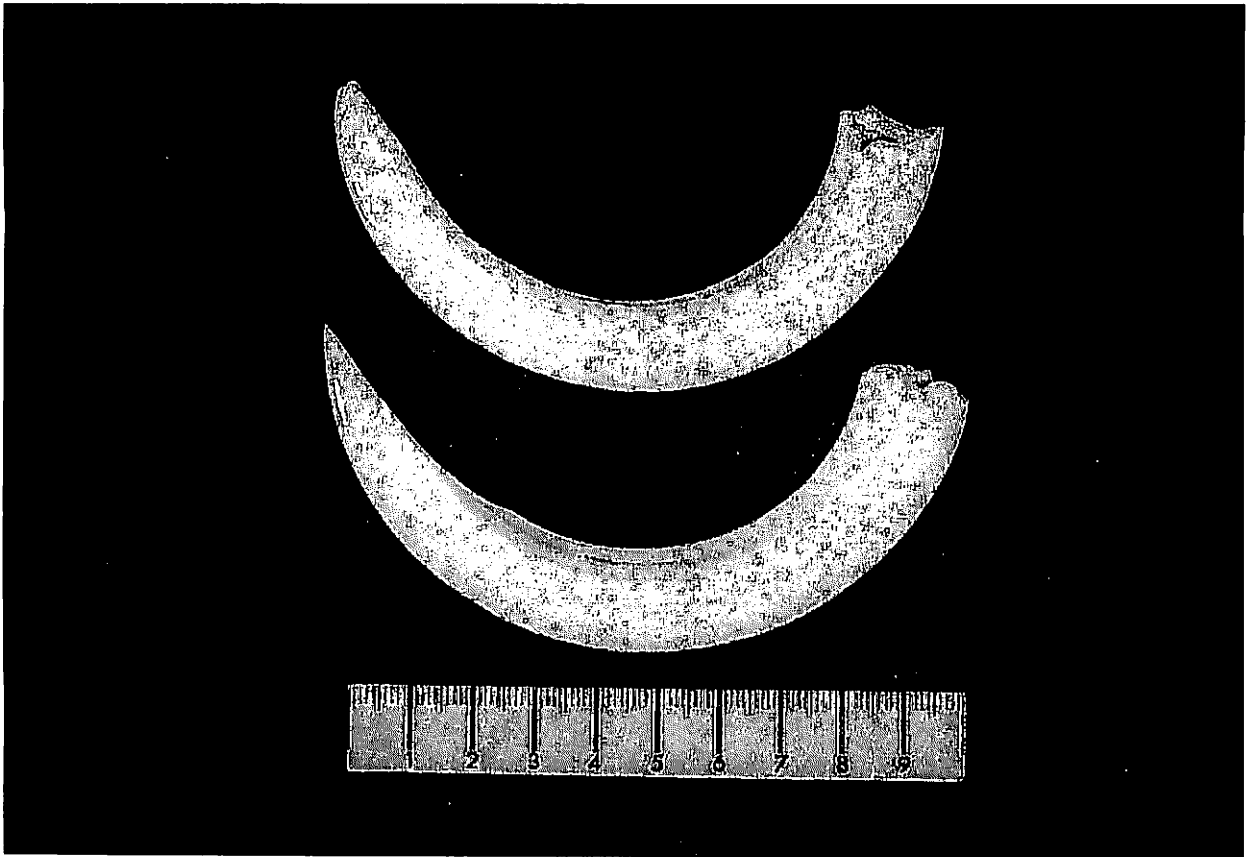
図版4 ウシの距骨 上：ホルスタイン種（踵骨と関節）、下：出土骨



図版5 ウシの骨(基節骨) 左：出土骨、右：ヨナグニウマ



図版6 ウマの骨(末節骨) 左：出土骨、右：ヨナグニウマ

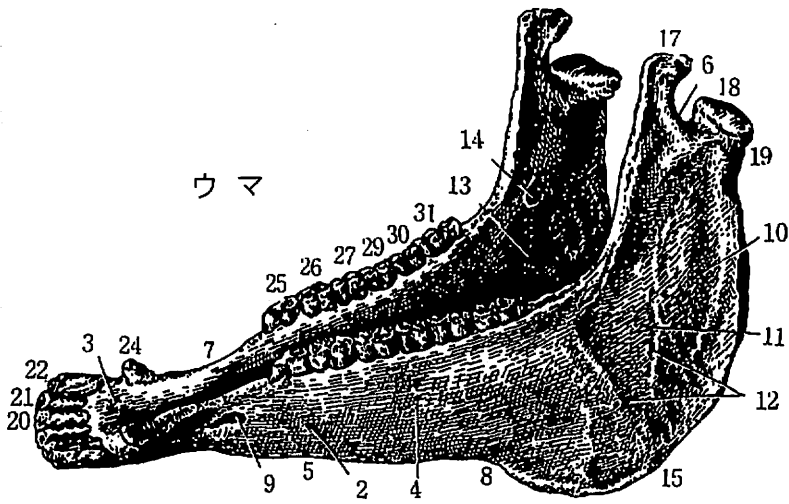


図版7 リュウキュウイノシシの犬歯 上：出土犬歯 下：現生の石垣島産犬歯

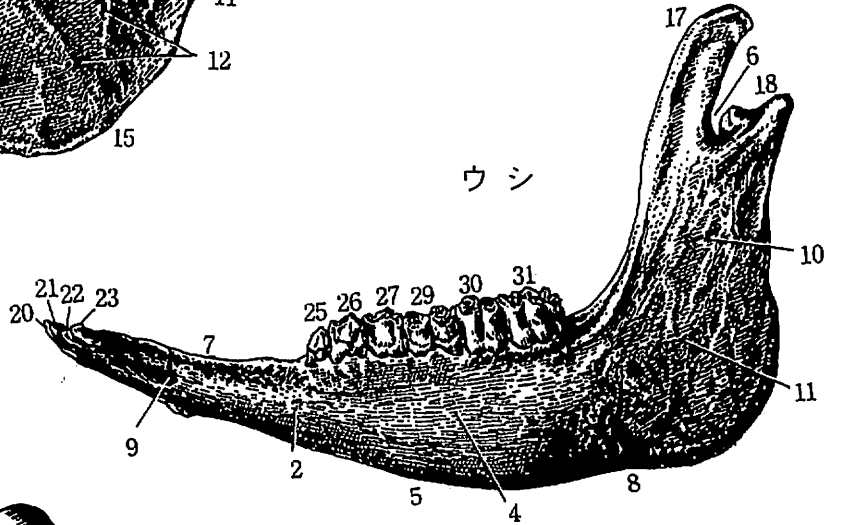


図版8 イヌの下顎骨 上：出土骨 下：テリア種

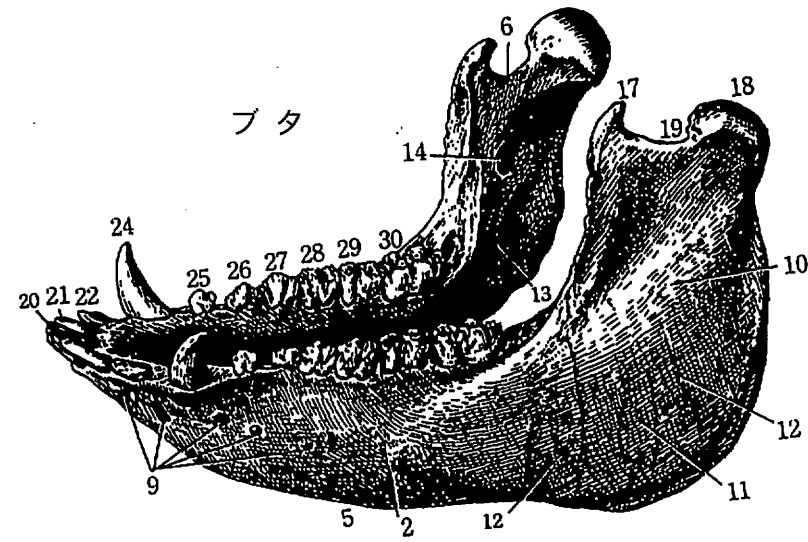
ウマ



ウシ



ブタ



イヌ

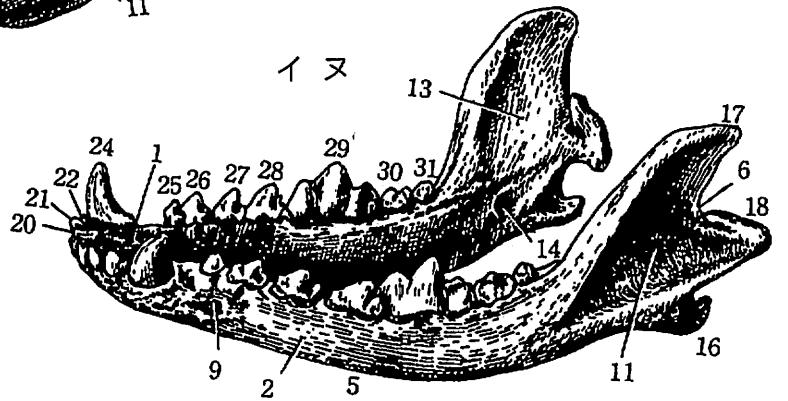


図58 各種動物の下顎骨 (25. 第一前臼歯 26. 第二前臼歯 27. 第三前臼歯 28. 第四前臼歯
29. 第一後臼歯 30. 第二後臼歯 31. 第三後臼歯)

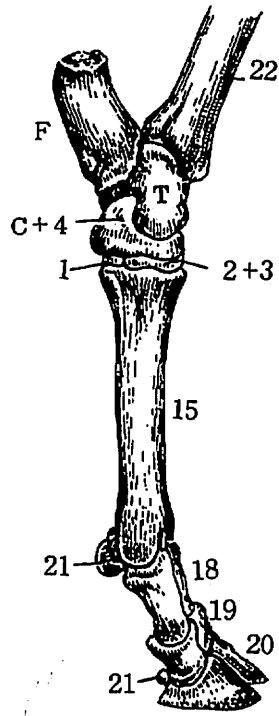


図59 ウシの後肢末端骨格 F：踵骨 T：距骨 15. 中足骨 16. 基節骨（20まで骨）
 19. 中節骨 20. 末節骨 22. 下腿骨（脛骨） Fはヒトの踵（かかと）に相当する。